

シラバス確認

シラバス入力 > シラバス確認

印刷する

更新

開講年度 Academic year	2026年度		
講義コード Course title (Japanese)	0A2009101		
講義名 Course title (Japanese)	公益事業論 I		
英文講義名 Course title (English)	Public Utilities I		
(副題) Course subtitle			
開講責任部署 Faculty			
講義開講時期 Semester (s)	前期	講義区分 Type	講義
単位数 Credit hour (s)	2	時間 Total hours	0.00
代表曜日 Day	木曜日	時限 Period	1 時限
校地 Campus	本キャンパス (駅東通り)		

所属名称	ナンバリングコード
	B1-MAN117LJ

担当教員 Lecturer (s)			
職種 (専任教員・非常勤教員) Position (Full-time/Part-time)	担当教員名 Lecturer (s)	実務経験の有無 Work experience	所属学部 Department
兼任教員	◎ 蟻生 俊夫	◎	経営学部

授業の内容 (主題) Course description	<p>企業経営は、通常、自由な競争の下に展開されるのが望ましい。しかし、財の性質や産業の成熟度によっては、国や地方自治体の適正な監理を必要とするものもある。たとえば、鉄道・航空、通信、電力・ガスなどのサービスは、経済学でいう「市場の失敗」のケースになりやすいため、独禁法の適用除外となる一方、新規参入や料金設定などについて、さまざまな規制が課せられている。</p> <p>本講では、こうした一連の企業（公企業とか公益事業と呼ばれるもの）の経営のしくみや理論について理解を深めてもらう。</p>		
到達目標 Course objectives	私企業と公企業・公益事業の違いを確認し、公的規制で代表的な料金規制と参入退出規制の内容を把握する。また、料金規制の理論として、総括原価主義や限界費用主義について、実際の企業事例にもとづき理解できるようにする。		
ディプロマポリシーとの関連 Accordance with diploma policy			
◎：非常に強く関連する ○：強く関連する △：関連する 空欄：該当しない			
<table border="1"><tr><td></td><td></td></tr></table>			

①二十一世紀の社会の発展と地域の産業、経済、文化等の活性化に貢献できる能力	◎
②激変する国際社会の中にあつて、十分な異文化理解のもとに、長期的で広い視野に立って将来を展望し、行動できる能力	○
③本格的な高度情報社会において、最新の情報を的確に入手し、それを有効に活用したうえで効果的に情報を発信できる能力	○
④自らの判断、努力と責任に基づいて、社会に積極的に貢献できる豊かな教養と柔軟な思考力	◎

授業計画表
Course plan

回 Class sessions	内容 Topics	予習・復習 Expected work outside of class
第1回	自己紹介、公益事業論Ⅰの位置づけ、成績評価の方法	「電気使用量のお知らせ」、携帯電話の領収書など、自分自身で支払っている公益事業関連の料金明細書をよく読み、その内容を理解しておくこと。また、電力、ガス、通信、鉄道などの公益事業の動向や、温暖化問題への国・企業の対応などの新聞・雑誌等の記事を普段からよく読んでおくこと。（2時間程度） 配布するプリントをファイリングするとともに、ノートをしっかりと整理し、そこで出てくる用語とその意味を確認する復習を行うこと（2時間程度）。
第2回	公企業・公益事業の概念（その1）	同上
第3回	公企業・公益事業の概念（その2）	同上
第4回	公企業・公益事業の概念（その3）	同上
第5回	公企業・公益事業トピックス①（未来の持続可能なエネルギーを考える）	同上
第6回	公的規制の概要（その1）	同上
第7回	公的規制の概要（その2）	同上
第8回	公企業・公益事業トピックス②（電力システム改革とは何か？）	同上
第9回	公企業・公益事業の料金制度（その1）	同上
第10回	公企業・公益事業の料金制度（その2）	同上
第11回	公企業・公益事業の料金制度（その3）	同上
第12回	公企業・公益事業の料金制度（その4）	同上
第13回	公企業・公益事業の料金制度（その5）	同上
第14回	公企業・公益事業の料金制度（その6）	同上
第15回	公企業・公益事業トピックス③	同上

授業計画コメント Course outline	電力、通信、航空など公企業・公益事業の実際の経営問題、制度変更などの最新動向を随時織り込みながら授業を進めていく。
授業の進め方 Session plan	パワーポイントやビデオを活用した講義を実施する。講義では、具体的事例を紹介しながら平明でわかりやすい解説を心がける。また、何らかの理由で欠席しても理解できるよう1回の講義で1つのテーマが完結する内容にしていく。より理解しやすくなるよう、最初にプリントを配付し随時説明を加えていく。
アクティブラーニング Active learning	電気や水道などの自分自身の検針票や請求書などにもとづき、公益事業のサービスや理論、実践について自ら考えるアクティブラーニングの手法を取り入れる。また、必要に応じて、WEBCLASSのよるメールのやりとりで意見交換を実施する。

実務経験を活かした授業内容 Course contents based on related work experiences	政府による電力システム改革やカーボンニュートラル実現などへの対応について、最新かつ具体的な内容を説明していく。					
授業時間外の学修（予習・復習等） Preparation and review outside classroom hours	「電気使用量のお知らせ」、携帯電話の領収書など、自分自身で支払っている公益事業関連の料金明細書をよく読み、その内容を理解しておくこと。また、電力、ガス、通信、鉄道などの公益事業の動向や、温暖化問題への国・企業の対応などの新聞・雑誌等の記事を普段からよく読んでおくこと。（各回2時間程度） すべての回において配布するプリントをファイリングするとともに、ノートをしっかり整理し、そこで出てくる用語とその意味を確認する復習を行うこと（各回2時間程度）。					
教科書等 Textbooks and materials						
	タイトル Title	著者名 Author(s)	出版社 Publisher	出版年 Year of Publication	価格 Price	ISBN
1						
2						
3						
4						
5						
(必ず購入すべきもの) Materials required for sessions	教科書は使用しない。 授業時に配布する資料やパワーポイントによるプレゼンにもとづき講義を進める。					
参考図書 Reference book(s)	特定の教材は用いない。					
成績評価方法および評価基準 Evaluation criteria						
	定期試験 Tests	授業内小試験 In-class quizzes	レポート・課題 Reports/Assignments	受講態度 Class Attitude		
評価比率% Evaluation ratio	60%	30%	0%	10%		
成績評価の方法に関する注意点 Assessment criteria	授業内小試験については、毎回の講義内容を確認するものであり、講義の終わりの時間帯を使用して随時（7～8回程度）実施する。 受講態度については、ノートチェックにもとづき評価する。					
課題のフィードバック Feedback	授業の最初に、前回までの学修内容を振り返るとともに、その日の授業を理解するために必要な知識を確認する。 授業内で随時、その回のテーマについて、小テスト形式で課題を求める。課題については、その内容を吟味して、次回に講評する。					
学生へのメッセージ（履修上の心得） Message to students (class guidelines)	できるかぎり出席し、ノートをしっかりとること。					
科目のレベル、前提科目など Level / Prerequisites	前提科目；企業論、経済原論 関連科目；公益事業論Ⅱ、経営戦略論、経営分析論、交通論、経営組織論、企業関係法 公企業、公益事業を理論的に考察、検討していくことが中心となり専門的な性格がやや強い。					
オフィスアワー/学生からの連絡方法 Office hours/Contact Information	原則として、随時、質問や相談を受けつける。 メールでの相談は、WEBCLASSを利用する。履修科目名、学籍番号、氏名、内容を記載のうえ、連絡する。					
授業関連Webページ Related website(s)	https://criepi.denken.or.jp/					
キーワード Keyword(s)	公益事業、公共料金、公共サービス、電力システム改革、エネルギーセキュリティ、地球環境問題、サステナビリティ、自然独占、原価主義、限界費用主					

[ページの先頭へ](#)

[閉じる](#)